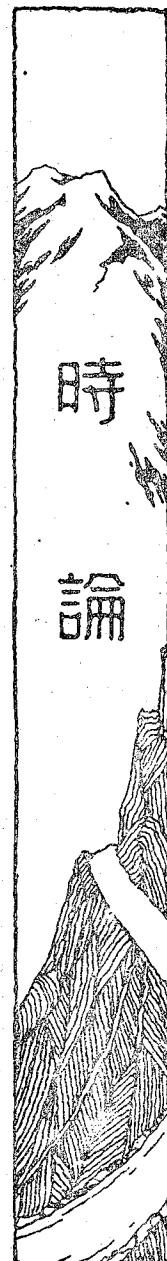


# 道 路 祭 に 就 て

近 新 三 郎



本年六月六日舉行せられたる東京市道路祭は、我國最初の道路祭たるのみならず、恐らくは世界に於ける最初の道路祭だと思ふから、之に關する感想の一端を述べて見たいと思ふ。

道路は日常生活と離るべからざるものであるが、其の利用方法は世と共に變化して、獨り交通の爲のみならず、通信の爲めにも、送電、送氣、送水等の爲めにも利用せらるゝこととなり、年と共に其の重要程度を高めつゝあるが、斯程に重要な道路に對する一般の觀念は、餘りに無關心なるが如く見ゆるは遺憾とするところである、例へば人目を憚らず啖睡を吐き散らすことはもとより、時々は屎尿に依つて之を汚すかと思へば、鼠や小鳥の死骸を捨てゝ車輪の轢き碎くに委すと言ふ様なことは、一流街路に於て行はるゝのであるから、沿道の宅地や住宅よりごみやあくだを掃き出すなどと言ふ

ことは、殆んど日毎に行はれつゝあることで、果物の皮でも紙屑でも所を嫌はず捨てると言ふ誠に無作法なる實際である。此の有様を見ては、道路愛護と言ふ觀念は、どれ程一般に行亘つて居るのやら、甚だ心細く感する次第であるが、其の癖道路が破損でもしやうものなら、惡道路々々々と最大級の形容詞を用ひて、新聞に、投書に、陳情に、殆んど餘す所なき總攻擊が屢々行はるゝある。なる程道路が良いのはあたり前で、悪いのはいけないのだと言へば夫れ迄のことであるが、さて種々の方面の人々が容易ならぬ苦心を拂つて、道路を良くすると、ウン俺等が金を出したから道路が良くなつた位に思ふ人もあるかも知れぬし、又之に對し心弱かに感謝をして居る人もあるかも知れぬが、一般的に見れば、中々以て道路を喰壺や、便所や、ごみ捨場扱にすると言ふ觀念は革たまらざるのみか、出來たてのアスファルト鋪装の上で、炭俵を焼き灰を製造すると言ふことすら平氣で行はるゝのであるから、道路に對し勿體ないとか、有り難いとか言ふ禮讃感謝の觀念に乏しく、恰も毎日照らす太陽の有り難さを忘れ居ると同じ様な心理狀態を持つ人がかなりに多いのではあるまいかと思はるゝ、尤も太陽は之を有難いと思ふ人が無くとも、太陽夫れ自身には無影響であるかも知れぬが、道路は之を有難いと思はるゝと、思はないとは、其の結果が観面に道路其のものゝ上に現はれて来るからたまらぬのである。

東京市では明治三十五年に始めて自動車が入つて來て、さて／＼エライ速い車が出來たものだと、物珍らしく思はれたのも五、六年の間で、其の後自動車がうるさき迄に増加し、大正七、八年頃では、都大路の砂利道を破壊すること夥しく其の爲めに舞上がる砂塵や泥水の飛沫の爲めに、市民の苦しみの大なりしことはもとより、何處の道路は玄海灘だと、彼處の道路は姫婦泣かせ道路だとか言ふ批評が、雨の降る度毎繰り返され、「東京市の道路上には稻を植えたらどうだ」の、「家鴨を飼つたらどうだ」のと言ふ様な惡駄洒落と言ふ外人もあつたと言ふ位で、東京市の道路を改良せねばならぬと言ふ聲

は相當に高かつたのであるが、先立つものは金で、中々實行する迄には至らなかつたのである。然るに大正九年路面改良の思召を以つて、御内帑金三百萬圓御下賜の御沙汰があつたので、市は三千九百萬圓で路面改良事業を起すこととなり、其の後帝都復興事業に依て、數億の金を授じ、道路系統を改良すると同時に、鋪装工事をも施行し、之に引續き、失業救濟事業等に依ても、道路系統及路面の改良を行ひ、今日に於てはさしもの惡道路も其の面積の五五%は鋪装せられ、下町に於ては六間以上、山の手に於ては四間以上の道路は殆んど其の鋪装を了つたのである。今の永田市長が後藤市長の下に東京市の高級助役をして居られた際に、時の遞相野田大塊氏が「秋雨や泥館居さうな江戸の町」と言ふ一句を寄せて堀返しの多い泥だらけの東京市の道路の有様を皮肉つて寄越したので、青嵐永田助役が「其の中に遞信省の鰻も居」と、電話線埋設の爲めの堀り返しに對し酬いられたと言ふのも、今は一場の笑話となりたるのみならず、名物の砂塵泥濘は郊外町村に鞍替して、長靴や高下駄が漸次其の影を潜め、フエルト草履が幅を利かすと言ふ譯であるから、塵を止めぬ鋪装の上に街路樹の影のゆるぎを見る様になり、道路の修繕費は半減して、自動車のガソリン消費量が三割も減り、タイヤーの壽命は倍にも延びると言ふ工合だから、市内圓タクが實際に於て半圓タクとなつたことは、何んと喜ぶべく有難きことではないか。然るに因襲の久しき、道路逆待、道路侮辱、道路冒瀆は容易に革まるべくも見えぬではないか、東京市としてでは山の手方面其の他に道路の建設も急がねばならぬが、道路の維持に道路の清潔保持は、一日も忽にすべからざることで、鋪装が市内道路の五五%も行き亘つたる今日に於て特に其の必要を痛感する次第である。道路の清潔保持の爲めに、其の管理者に於いて掃除を怠らぬことはもとより必要であるが、濫りに道路を使用し又は其の上に不潔物を捨てぬ様に、市民各自が氣を附けることは更に必要であると思ふ。

立派に道路が出来たが、地先の居住者が勝手に之を物置き同様に占用するのでは交通の妨げとなるを免れぬは勿論、手車にせよ自動車にせよ、貨物の一時假置にせよ、無統制に道路上に置くことは、御互に迷惑を免れぬ譯であるから、道路公徳を普及せしむることは、日に月に交通量を増しつゝある都市として目下の急務である。而して道路公徳を涵養するには先づ以て道路を有難いと思ふ觀念即ち道路禮讚の觀念を普及せしむることに其の根底を置かねばならぬと思ふ。道路禮讚の觀念の普及を計るには種々の方法に依つて大衆を導かねばならぬが、同じ導くにしても或る機會を捕えて、其の勢に乗ずるを最上の策とする。今回日比谷公會堂に於て催されたる東京市道路祭は、市内の主要道路に鋪装が普及したと言ふ絶好の機會を捕え、道路禮讚を其の第一義として企てられたるもので、而かも此の道路祭が官廳や公井團體の直接經營を離れて、民間に於ける道路改良會其の他十三團體に依り主催せられたることは近頃稀に見る企で、兎角官公署至上主義に陥り易き今日に於て、民間の有志團體が道路禮讚、道路改善、道路公徳涵養の爲めに活躍して宣傳に努めたることは、獨り東京市内に於ける道路禮讚の爲のみならず、全國的に道路禮讚の機運を促進する爲めに、貴き油を注ぎたるものと言ふべきである。道路祭は東京市内外の名士三千名の參列の下に祭典を行ひ、實際的に道路禮讚を行つたのであるが、尙ほ此の外にポスターの掲出、道路公徳涵養に關する標語の募集、氣球の掲揚、標語を揭示したる花電車及花自動車の行進、標語入マツチの配布、昭和通の裝飾及街路照明の増燭等、稍御祭騒ぎに類したことも行はれたが、一方に於て町會と連絡し街路清潔保持に關するリーフレットを各戸に配付し、他方に於て市内及隣接小學校と連絡して道路祭の當日各學校職員より一場の訓話と共に、道路公徳に關するリーフレットを見童に配付し、其の結果歸宅後の各兒童は早速其の居宅前の道路の清掃を實行したことの如きは實に涙ぐましき印象を壯年者に迄與えたことで、道路公徳の涵養は教育の偉大なる力に

俟つを捷徑とすることを痛感した次第である。尙當日は祭典開始前に道路祭總裁清浦伯が宮内省に出頭せられて、大正九年御下賜金の御沙汰を拜したる結果、市内の道路が斯く迄改善せられたることに對し、厚く感謝の詞を述べられて、其の執奏方を宮内大臣に乞はれたことは、皇室の御恩に感激する大衆の熱情の一端を披瀝せられたるものである。又祭典當日の夕には、永田東京市長はラヂオに依り道路禮讚の詞と共に市内の道絡の改善は全國民の力に依る所多大なりとして、之に對する熱誠なる感謝を、全國に對し表明せられたることは、之亦時宜に適する企であつた。私は今回の道路祭より見て、道路公徳の涵養は、小國民教育の偉大なる力に俟つを捷徑とするものなること前述の通りであるが、若し出來得ることならば、道路祭を春秋二回でもよいから各小學校で行つて、道路禮讚の觀念を、幼少なる國民の脳裡に涵養する様にしたいものだと思ふ。之やがて國民の全部を道路禮讚に誘ひ込む所以で、之に依り道路公徳を昂上し、道路管理者の清掃作業と相俟つて、道路の清潔を保持し其の美觀と利用とを増進するに至るものと思ふ。

尙ほ今回の道路祭で行はれたことの中で、總裁清浦伯より、東京市の道路に關する功勞者九十八名を表彰せられたることは、近頃の快事であつた。

功勞者の銓衡に付ては種々議論があるかも知れぬが、之は如何なる場合にも免れぬことであるから、此の點に深く立入ることは好まぬが、道路計畫、道路築造、道路植樹、道路照明及交通整理等に關し、兎角小言や苦情の百蔓陀羅を並べる癖に、其の當事者の苦心と功勞とを忘れ勝ちなるが如く見ゆる世間、當事者の過失を責むるに嚴にして其の功を認むるに吝なるが如く見ゆる世間に於ける有志團體より官民各方面の道路關係功勞者に對し、道路祭の晴れの式場に於て、叮重なる感謝狀と記念品とを贈呈したることは、道路關係功勞者に對する大衆的認識の表れであり、又道路禮讚の根底的觀念の

發露なりとして深く讃意を表する次第である。道路の改良と保全とは人間の力に依つて爲されたるものであり今後に於ても矢張り人間の力に依つて爲さるべきものであるから、道路を禮讃するものは先づ以て此の道路の爲に盡したる人々を禮讃すべきであるといふ觀念を大衆の頭に植込むことは特に必要である様に思ふ。

道路祭の目的は道路公徳の根底たる道路禮讃の精神を鼓吹するにあるは既に述べたる通りであるが、其の大衆的效果は單に一回の催しに依り達成せらざること申迄もないことであるから、今後には獨り東京のみならず全國各地に於ても適當の機會に於て隨時之を舉行せらるゝ様になつたならば、道路公徳普及の實績も一層速に擧るではあるまいかと思ひ、大方の御考慮を煩す次第である。

# 道路祭に方つて故堀田貢氏を懷ふ

## ○ 路政僧

灰道とか泥道とか所有する惡罵の的であつた東京市の道路が、其の主要なものゝ殆ど全部に亘つて鋪装され、帝都の面目を一新したので、之を機會に都市乃至は道路若は其の交通を目的とする私立の公益團體が聯合して道路祭を催し、道路鋪裝の普及を祝賀すると同時に交通道德の涵養道路愛護思想の啓發並に都市美増進の宣傳を行つた。寛に結構な企であつて